

昭和天皇「不例中の「おことば」

京都産業大学名誉教授 所 功

八年前の九月に完成された「宮内庁編『昭和天皇実録』(京書叢刊全八冊。以下『実録』)は、明治三十四年(一九〇一)四月からの御生涯を、平明な網文により綴っている(より詳しくは宮内庁の典拠資料で調べられる)。

巻頭随想 いま、伝えたいこと

歴史研究 第705号 2022年11月号

令和の大札資料を収集し活用する

京都産業大学名誉教授 所 功

「平成」の天皇陛下(85)が皇位を退かれ、皇太子殿下(59)が「令和」の新帝となられてからはや三年半になる。令和元年(二〇一九)十月十二日の「即位礼」も、十一月十二日夜の「大嘗祭」も、大旨順調に行われた。

令和の大札資料を収集し活用する

京都産業大学名誉教授 所 功

このような記録は、過去の歴史資料としてのみならず、将来の参考資料としても重要な意味を持っている。この点「平成」の大札については、政府も宮内庁も、数年かけて纏めた記録を公刊しているが、大正・昭和のそれと較べると、簡略すぎる。「令和」の大札については、ぜひ「平成」のそれより精緻な記録を仕上げてほしい。

巻頭随想 いま、伝えたいこと

歴史研究 第705号 2022年11月号

令和の大札資料を収集し活用する

「昭和」の大札は「大正」の大札に連抛して盛大、厳肅に行われた。その際は貴族院書記官長として大札使を受け継ぐ祭儀の実現に努力されたのであろう。